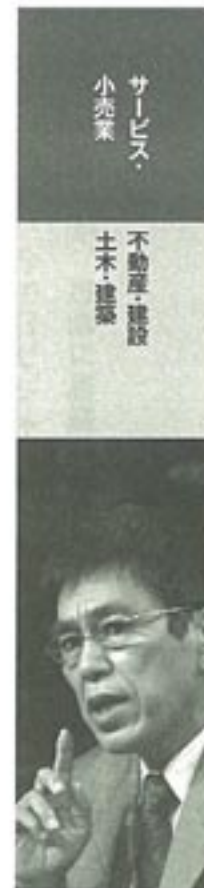




2011年5月20日
日本経済新聞出版社発行

カンブリア宮殿
就職ガイド
村上龍 × 73人の経済人



秋
平成建設社長

元
久
雄

いい仕事は、
自分のほうから
探すしかない

あきもと・ひさお
1948年生まれ。重山高等学校卒業後、自衛隊体育学校入学。ウェイトリフティング選手としてオリンピック出場を目指す。その後、大手デベロッパー、ハウスメーカー、ゼネコンに在籍。89年、静岡県沼津市に株式会社平成建設を設立。大卒・大学院卒の大工や職人を正社員として採用、自社で育て、建築のほぼすべての工程を内製化している。

大工も腕がいいだけでは買ってもらえない

小池 平成建設は大卒の方が多くそうですが、大卒でないと大工さんになれないということではないですか？

秋元 いや、もちろん高卒でも中卒でもいいんですよ、しっかりしていれば。ただある程度、大工になるには素養がいるんですよ。単能工ならいいのですが、大工というのは、やる範囲が広いんです。すべて網羅して初めて大工と言える。十年経って一人前の一年生になると言われるような社会を勉強して来るから、奥が深くなるんですよ。機械化も進んでいますし、むしろ頭を使って、お客さんのニーズをつかんでもらいたい。腕がいいだけでは買ってくれませんから。

村上 おっしゃることは理解できるのですが、大工さんというのは大学を出ていなくても、手先の細かさとかやる気とかがあればなれたというイメージがあって、そこに大卒の人が進出してくると、高卒の人は困るようなところはありませんか？

秋元 だって今や現実に中卒、高卒で大工になる場所はあまりありませんから。昔は大丈夫だったのですが、今はその行き場さえも全くないんです。我々の頃は中卒、高卒が当たり前でした。大学の数も少なかったし、大学に行く人も少なかったですから。だから学歴はなくても頭のいい連中がいっぱい、大工になっていました。

村上 大工さんという職業は人気がありましたよね。

秋元 仕事は面白いですよ。

経済学部を出て、算盤をはじく大工がいてもいい

村上 人材供給が不足しているのは医者だけではないんですね。

秋元 全然足りません。増えないですね。今、大工の主力は五十代、六十代ですよ。その人たちがものすごい早さで抜けようとしています。

村上 逆に言うと若い人にはチャンスといえばチャンスです。大工になれば仕事はあるわけですからね。

秋元 あります、あります。

村上 大工になりたいと思ってる人に何かアドバイスはありますか。

秋元 余裕があるなら大学に行った方がいいんじゃないですか。できれば一級建築士が取りやすい建築か土木を勉強してもらいたい。

村上 経済学部では駄目ですね。

秋元 別にいいんじゃないですか。算盤はじく大工だって悪くないですよ。

村上 大学に行きたくない人は高卒でもいいですか。

秋元 いいんじゃないですか。

村上 何か心がけるべきことはありますか。

秋元 まず何年か、我慢するということですね。そうしたらすぐ面白くなる。

村上 とはいえ、全員が平成建設に入れるわけではないと思いますが、入れなかった場合、具体的にはどうすればいいんでしょう。

秋元 とにかく、いい親方を探すしかもう方法はないですよ。

村上 でもインターネットで検索しても出てこないですよ。

秋元 あとは、口コミ。もう向こうから「来い、来い」とはやってくれないわけだから、自分のほうから探すしかないですよ、いい仕事は。

村上 僕は、昔でいう働き甲斐みたいなものが薄れ、みんなが消費行動だけで自分を確かめてるよ。うな、ちょっと歪んだ状態にあるような気がするんです。そういう時に平成建設の、仕事を頼む人の顔も一緒に働く人の顔もよく見ることができる仕組みというのは、案外貴重なモデルかもしれないという気がするんです。

秋元 あまり偉そうなことを言うわけではないけれど、当然企業ですから、金を稼がなきゃいけません。でも、金を稼いだって、何に使うのかわからない方がおられますよね。それでは空しいですよ。会社にとって一番の社会貢献というと、やはり利益を上げて、法人税を払って、そこで働く個人が所得税、住民税を払うことで、これも絶対大切ですけど、そういう仕組み作りというのは大切だし、それによって日本の文化や伝統を守っていくことが、私たちの組織に与えられた使命のような気がするんです。でもそれだったらもっと規模を大きくしないと無理だろうなと思ってるんです。

（二〇〇八年九月一五日放送「建築業界にメスを入れる風雲児登場！ ～これからは、高学歴大工を育てろ～」より）